

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	夢への挑戦～やり抜く力の大切さ～
事業主体 (連絡先)	公益社団法人 佐久青年会議所 (佐久市中込 2976-4 佐久商工会議所館内 電話 0267-62-2656 代表：理事長 中村雅英
事業区分	(3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,409,696 円 (うち支援金：1,057,000 円)

事業内容

【事業内容】 トークショー

【ゲスト】

- 浅尾 美和 氏 (元プロビーチバレー選手)
- 狩野 舞子 氏 (元バレーボール全日本女子代表)

【開催日】 2019年10月6日 日曜日

トークショー 16:00～18:00

【開催場所】 佐久市立佐久平浅間小学校 体育館

【住所】 長野県佐久市長土呂1717番地

【参加人数】 トークショー (佐久地域住民及び県内外住民申し込み405名)

参加結果人数 : 380人

両氏サインボール贈呈 (18歳以下抽選にて選定 限定6ヶ)

【参加費】 無料

【トーク内容】

- ① 夢への挑戦
現役時代の目標とは何だったのか。高校時代、オリンピック、何がきっかけでその目標を定めたのか。
- ② 夢の実現のために
夢への実現のために、どれくらいの期間、どのような努力を重ねたのか。
チームメイトとの協調、両親との関係、練習以外で心掛けていた点。
- ③ 挫折
ケガや不振、夢に向かう中で立ちはだかった壁とは何だったのか。それにどう向き合ったか。どのように乗り越えたのか。そこで支えとなったのは何だったのか。
- ④ 今後について
現役生活から引退後にかけて、今後スポーツ界のみならず女性が活躍できる地域社会になるためには何が必要か。「自分らしさが出せる環境」や「夢に向かって努力できる環境」について。
- ⑤ 両氏サインボール贈呈
18歳以下の世代に向けて、本日のトークがきっかけで気づきや目標の一助にさせていただくために、限定数で、サインボールを本人から手渡し。

※SDGs としての取り組み

「5 ジェンダー平等を実現しよう」

5. C ジェンダー平等の促進、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。



【トークショーの様子】

近年パワハラ等問題になっている日本スポーツ界。注目される中で、夢や目標に向かってどのような努力をしてきたのか、挫折から復活、また女性がより活躍できる社会になるためには何が必要か、スポーツの観点からお話をいただいた。

「8 働きがいも経済成長も」

8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。

やり抜く子の増加を目指すことで、将来の働き手の育成につながり、しいては経済成長への一助。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① やり抜く子の増加

事業内容①～③、⑤を通して、アンケートの感想では、いい評価をいただいた回答が約9割。その中で、「あきらめずに挑戦していく、向かっていくということが大切だとわかった」(10代女性)、トークの中で「挫折に直面した時のアプローチ方法(ポジティブな捉え方に変換してみる)ことを学べた」

(20代女性)「娘に伝えたい」などの声があり、目的に対する効果はあった。

② ジェンダー平等に対する意識向上

事業内容④を通して、アンケート(ジェンダー平等に関する問)に対しても59件の回答をいただいた。女性がより活躍できる社会を目指すための課題、改善方法として「男女平等に関する教育体制の見直し」「託児、保育施設の充実化」「企業単位での就業体制の見直し」などの意見を抽出することができ、ジェンダー平等に関する意識の向上と今後の事業内容構築のための一助とすることができた。

【目標・ねらい】

- ① やり抜く子の増加
- ② ジェンダー平等に対する意識向上

※自己評価【 B 】

【理由】

アンケート結果から、老若男女問わず目標や夢を持つこと、またそれをやり抜くことが大切ということの事業趣旨が伝わったから。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・今回の事業を通じて、目標に対してどのような行動を起こすのかを念頭に置き、本会議所で行っている青少年育成事業(佐久っ子道場、佐久チャイルドワークス)に活かしていく。
- ・説得力と発信力に長けている著名人からのメッセージを利用できる事業構築をしていく。また、他団体事業(今回は SAKUBLOOM イルミネーション)と協力することで双方に効果的(交流人口創出など)なため、地域と連携し検討していく。
- ・ジェンダー平等について、地域住民または当事者からの声を抽出することができた。持続可能な開発目標に関して、行政とも連携した事業に活かしていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある